

## SIG- II での検討の進め方(案)

## 中間報告以前

- (1) 有線によるブロードバンドの提供が困難なシチュエーションを整理する。
- (2) 各シチュエーションごとに、ブロードバンドを提供するためには、どのような電波利用アプリケーションが必要になるのかを検討する。
- (3) 利用システムごとに、需要・ニーズ・普及の分析を踏まえてビジネスモデルの検討を行う。
- (4) 利用システムごとに、国内外の標準化等の動向をまとめる。

## (事前送付)

- 中間報告書の定義に基づいて、事務局が「有線によるブロードバンドの提供が困難なシチュエーションの整理(案)」のたたき台を作成。

## (第1回)

- たたき台について事務局から説明し、各参加者から修正意見等を検討。
- 各提案者から、それぞれの提案に関して、以下について説明。
  - ・提案そのものの概要
  - ・提案が対象とするシチュエーション
  - ・需要・ニーズ・普及の分析
  - ・ビジネスモデル
- 各シチュエーションごとに提案をグループ分け。

## (第2回(メール審議))

- 各シチュエーションごとに、以下について検討。
  - ・必要になる無線アプリケーションの要求条件
  - ・ニーズの成長予測
- (必要に応じて、周波数幅の算出方法の検討方法についての事前検討)

## (第3回)

- 各シチュエーションごとにメール審議の結果を説明。
- 中間報告の内容を検討。

## 中間報告以降

- (5) 利用システムごとに、標準化時期、製品化時期、導入希望時期を踏まえ、今後の実現までのスケジュールを検討する。
- (6) 今後の再編対象となっている周波数帯や周波数帯幅の状況を踏まえ、各利用システムを実現するために必要となる周波数帯、周波数帯幅等を検討する。
- (7) 中間報告書で公表されたワイヤレスブロードバンドシステムの導入に当たっての基本的な考え方との整合性を確認する。
- (8) 各利用システムの実現に向けた普及支援策等を検討する。
- (9) SIG-Ⅱの報告書をまとめる。

※中間報告以降の進め方は、おって検討。